



## 2 福祉体験活動

- (1) 日時 平成29年2月6日(月) 3・4校時
- (2) 実施学年 第5学年 31名 (総合的な学習の時間)
- (3) 内容等 (2グループに分かれて、次の2つの体験を実施した)

### ア 手話体験

手話講習のボランティア団体の方々を講師として招き、基本的な手話の体験を実施した。

### イ 車椅子・アイマスク体験

八千代町の社会福祉協議会の協力を得て、車椅子とアイマスクの体験を実施した。



## 3 パラリンピアンを招いた講演会の開催

- (1) 日時 平成29年2月14日(火) 9:00~12:00

- (2) 講演

演題 「パラリンピック精神について」

講師 上村 知佳 先生

日本車椅子バスケットボール協会 理事

シドニーパラリンピック大会

車椅子バスケットボール競技 銅メダリスト

- (3) 内容等

### ア 講演・・・1～3年、4～6年に分けて実施

自身の体験をもとに、できないことをあきらめるのではなく、できるようにするためにはどんな工夫が必要かを考えて行動することの大切さを教えていただいた。



### イ 車椅子バスケットボールの実技披露及び体験

児童は上村選手のプレーを見て、その迫りに圧倒されていた。また、努力することの大切さや素晴らしさを実感することができた。



### ウ 上村選手への質問コーナー

最後の20分間は、児童からたくさんの質問があり、ひとつひとつ丁寧に答えていただいた。上村選手の人間的な魅力がさらに広がった時間となった。



#### 4 障害者スポーツの体験（ブラインドサッカー）

(1) 日 時 平成29年2月17日（金） 1・2校時

(2) 実施学年 第5学年 31名（体育）

(3) 内容等

ア 本時のねらいの説明とルール等の話し合い

先日の上村選手の講演会での「できないことを数えるのではなく、残されたものを最大限に生かす」というパラリンピックの精神を取り上げ、どうすれば目が見えない状態でもサッカーを楽しむことができるかを子どもたちと考え、ルール等を決めた。

イ 配慮すること

(ア) 安全面から

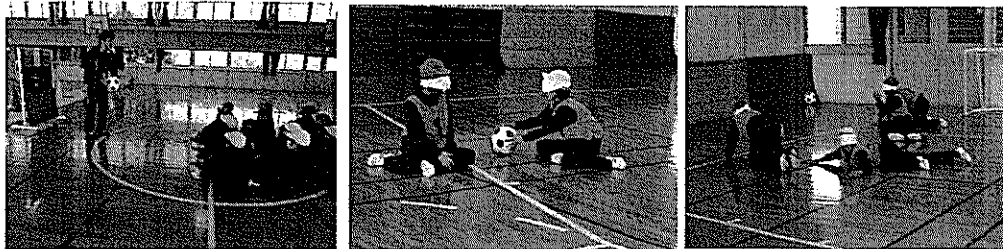
- ・座ってプレーする。
- ・手を使う。
- ・ゾーン内でのポジション制。
- ・体育館の壁に安全マットを敷く。

(イ) 障害への対処の面から

- ・ボールの転がる音が聞こえるようにプレー中は静かにする。
- ・指示を出す担当をひとり決める。

ウ 自分たちで考えて作ったブラインドサッカーを体験

- ・はじめは、怖がっていた児童も徐々に動きが活発になり、プレーを楽しむことができた。



#### 5 成果

(1) 児童や保護者の振り返りから

ア おもてなし講座

（児童の感想）

- ・相手の気持ちを大切にすることが「おもてなしの心」なんだと思った。
- ・日本人として「おもてなしの心」を忘れずに人々と接したい。

（保護者の感想）

- ・仕事や日常の生活でも生かすことができる話だったのでとてもよかった。

イ 福祉体験

(児童の感想)

- ・手話を通してコミュニケーションがとれたとき、気持ちまで通じ合えた感じがしてうれしかった。
- ・アイマスク体験では、何も見えず怖かったが、サポーターのおかげで階段も上り下りができた。今度、目が不自由な方が困っているのを見かけたときには、声をかけたい。

ウ 上村選手の講演 (事前のアンケート) \*全児童208名実施

Q1. 2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが行われることを知っているか。

知っている 83%      知らない 17%

Q2. オリンピックをテレビで見たことがあるか。

ある 74%      ない 26%

Q3. パラリンピックをテレビで見たことがあるか。

ある 62%      ない 38%

Q3. パラリンピックの競技の種目を知っているか。(複数回答あり)

\*主なもの

- ・バスケットボール    ・サッカー    ・陸上    ・水泳    ・卓球

(事後の児童の感想)

- ・上村選手のお話を聞いて「あきらめないこと」「支えてくれる人がいること」を忘れずに生きていきたいと思う。
- ・これから、車椅子に乗っている方を見かけたら、自然に声をかけたいと思う。

エ ブラインドサッカー体験

(児童の感想)

- ・始めは怖かったが、ボールの音と友達のアドバイスを頼りにゲームに集中して取り組むことができ楽しかった。
- ・上村選手の話の中の「できないからといってあきらめるのではなく、できるようにするためにはどうすればいいか考えることが大事」ということが理解できた。

(2) 今回の活動を通じた児童の変容

ア 日常のあいさつが大きく変わった。相手の表情を見て、気持ちを込めたあいさつ(分離礼)や声かけができる児童が増えた。

イ 児童会活動や学級での係活動等、主体的な取組が以前よりも活発になった。

ウ 友達の意見を最後まできちんと聞き、自分の意見をもつことができる児童が増えた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う問題点】

講師の依頼や日程・内容等の連絡調整が難しかったが、このような機会を与えていただけたことで、本校にとって非常に大きな教育的成果を得ることができた。今後、講師やゲストティーチャー等の人材バンクがあれば、目的やねらいに合わせた計画が進めやすい。